

ヒューマンフェスタ2015

平成27年1月31日
コビスみよし

《テーマ》『明日笑顔になあれ・・・夜回り先生いのちの授業』



水谷 修さん(花園大学客員教授、上智大学非常勤講師)

荒れた定時制高校の教師を担当したことから始まった27年間、夜のたまり場を回りはじめたという先生の話す内容は驚くことばかり。

中高生、若者が誘惑の多い夜の世界に身を置いた時どうなるか？

若者に声をかけ悩んでいないか、困っていないか、相談はないか、話を聞くよ、と同じ目線になり身体ごとぶつかっていった。

13年前は夜の部屋で問題をかかえる多数の子供がいるという事に気づき、水谷青少年問題相談所も開設し、TEL

・メールで受け又、時にはそこにかけつける。
心の病は太陽にあたり、身体を動かして夜はぐっすり眠る。
美しいものをさがすことによって、心を強くしてくれると話す。
今、沢山の救われた子供たちが、先生の片腕として全国で悩みをかかえている子供たちを救っている。

先生の提唱する8時・3時の登下校の見守りで一声をかけてあげる運動は、私達も身近にできることもかもしれません。

*ツリーへのアンケート、たくさんの方の参加ありがとうございました。
男女共同参画・情報誌「まなざし」・オレンジリボン(児童虐待防止)いずれも今後の周知が必要な課題です。



アンケートにたくさんのご意見をいただきました。

特に若者や中学生、高校生、孫達にきてもらいたかった、という記入が多く先生の子供を大切にする熱い思いは会場のみなさんを心に強く響いたようです。以下に参加者の声をいくつか紹介します。

●とても勉強になりました。私は教員なのですが、最近思い通りに行かず考えていましたが、もやもやが「ぼつ」と消された気がします。「1日10個認める」実践したいと思います。ありがとうございました。●とてもよかったし、もったいない。もっと沢山の若者が聞けたらいいのに、と思いました。中学生、高校生、親、教育者の全ての人に伝えたいと思いました。●体験に基づく話であり、説得力があった。語りが上手で皆聞きほれていた。●水谷先生のテンポの良い話。はざれの長い口調の中から感動！心地よさを痛く程得られた。思わず涙がこぼれました。

平成26年度

三芳町男女共同参画推進会議 活動報告

推進会議では、この1年間毎月の定例会議(第2金曜日、午後7時から9時)の他、次の様な活動をしてきました。

- 6月19日~26日 全国男女共同参画週間(藤久保公民館にてパネル展示)
- 27日 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議(5名)
- 8月30日 男女共同参画推進フォーラム・村木厚子氏特別講演(10名)
- 9月1日 三芳町議会・男女共同参画協議会(2名)
- 10月10日 民生・児童委員定例会において、男女共同参画について説明(2名)
- 10月11日 共に生きる女(ひと)と男(ひと)のセミナー(中澤まゆみ氏講演)
- 10月17日~18日 日本女性会議2014札幌(4名)
- 11月18日~4回 まちづくりワークショップ(延6名)
- 1月31日 ヒューマンフェスタ2015(水谷修氏講演)
- 3月1日 情報誌「まなざし」第13号発行
- 15日 まちづくりフェア出展

●その他下記の会議に委員を派遣しています。

- ①防災会議
- ②次世代育成支援対策地域協議会
- ③子ども・子育て審議会
- ④社会教育委員
- ⑤社会福祉協議会評議員
- ⑥下水道審議会
- ⑦被表彰者選考委員会
- ⑧行政改革懇談会
- ⑨総合振興計画審議会



共に生きる女と男のセミナー

平成26年10月11日
藤久保公民館



中澤 まゆみさん(ノンフィクションライター)

あなた、わたしがいなくなっても大丈夫？

中澤まゆみ氏(ノンフィクションライター)をお迎えしました。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」伝えたいというのがモットーでした。

講演では老後の不安を安心に変える知恵と工夫と在宅医療の可能性について、解り易くお話ししていただきました。

三芳町の人口=3万8,285人

(2014年8月末日)

高齢者数=9,700人(25%)

70代までは男女比はほぼ半々だが、80代から女性が多くなる。

90歳以上 284人(男51人、女233人)

100歳以上は11人(男1人、女10人)

●三芳町の人生100年時代

長生きするための秘訣

- 「記憶力がたしか」「自立心がある」
- 「好奇心が旺盛」「長年の趣味がある」
- 「適度な運動をしている」
- 「言いたいことを言っている」
- 「指先を使っている」
- 「感謝の気持ちを忘れない」

共通項=脳を楽しく活性化している

●自分力の基本とは？

地域のつながりがなぜ大切なのか

「金もち」よりも「人もち」「心もち」

家族の力のみで、介護を支えることは不可能
公的なサービスだけでは十分とは言えない
地域のさまざまな支援者、人的資源を見つける
医療・介護・福祉、そして私たち自身のささえあい

- ちよつとずつのおせっかい
- できることを、できるだけ
- 「社会資源」としての高齢者になる

●「人もち力」をつける

これからの人生を自分らしく生きるためには…

ひとり一人の健康状態と予算
生活環境に合わせたケアのネットワークを
「自分力」「人もち力」「地域力」
で、つくっていく

国の財政には限界も・・・
今後の超・超高齢社会
問われているのは私たち自身です

●自分らしいケアネットをつくる

日本の平均寿命は男性80歳、女性87歳の時代です。また、健康寿命という言葉を目にしますが、とても大切なことであると思います。①健康 ②お金 ③生きがい、今社会問題にもなっている認知症ですが、4人に1人が介護を受ける時代に来ているのではないかとされています。

そうならない為にも自分力を持つ、それには ①バランスのよい食事 ②記憶力・自立 ③運動 ④指先を使う ⑤友達を多く持つ(前向き) ⑥他人のせいにならない(自分力) ⑦趣味を持つことが大切。そして最近、医療と介護、自宅と医療、介護予防をしながら地域でケアをしていける様になって来ている。誰でも認知症になりうることは十分考えられると思いますので、一日一日を大切に生きていきたいと思います。

(渡邊)

